

整備の考え方に関する意見

整備の考え方に関する意見のまとめ方

皆さんが日頃土岐川庄内川に関して課題とと思っていることを「コレカラボイス その1(課題編)」として平成16年3月にとりまとめ、発行しました。

その課題の中から次の8つのトピックをとりあげ、平成16年春以降に開催してきたオープンハウスで、トピックに関する皆さんの考え方を伺ってきました。6ページ～12ページにとりまとめたのは、その意見を分類、整理したものです。

トピック

1. 治水の目標を検討するにあたって
どのようなことに気をつけるべきか?
2. 雨水貯留・雨水浸透対策をどのように進めていくべきか?
3. 内水被害解消をどのように進めていくべきか?
4. 治水工事をどのように進めていくべきか?
5. 水質の改善をどのように進めていくべきか?
6. 外来生物への対処をどのように進めていくべきか?
7. 堤防道路をどのようにしていくべきか?
8. 河川空間をどのように利用、管理していくべきか?

とりまとめた意見の見方

皆さんから寄せられた意見は、同じ内容どうしで束ね、「意見の主旨」としてとりまとめています。

また、計画づくりに反映しやすいように、同様の「意見の主旨」を集め、それぞれタイトルをふっています(例: **1-1** などからはじまる文章)。なお、意見の主旨の文末の数字(例:(2))は、意見の主旨の元となった意見の数を表しています。1つしか意見がない場合には、数値の記述はありません。

1 治水の目標を検討するにあたって、どのようなことに気をつけるべきか?

1-1 治水、環境保全、利用の調和が大切

- 自然環境の保全と治水の調和が必要(25)
- 治水への考慮の一方、自然環境の保全も大事(16)
- 洪水・水害対策とともに、水質改善に努力すべき(2)
- 治水だけを目的に整備を考えてほしくない(2)
- 長期的に見て流域住民が住みやすくなることが大事

1-2 流域全体で治水を考えることが重要

- 森林保全、税制などを通して、流域での雨水浸透対策を進めるべき(5)
- 支川の治水も考慮しながら、洪水・水害対策を行うべき(4)
- 周辺の土地利用を考慮して、洗堰の関係を直すべき(4)
- 上下流域が一体となって取り組むことが必要(3)
- 上流の開発が問題を引き起こしているのではない(2)
- 元々の河道や遊水機能を活用すべき
- 堀川等への河川水の流入量を増加させるべき

1-3 洪水・水害対策を優先すべき

- 洪水・水害対策を優先すべき(17)
- 二度と洪水・水害が起こらぬよう、洪水・水害対策を優先すべき(2)
- 自然環境の保全も大事だが、やはり洪水や水害が心配(2)
- 地震が心配(2)
- 被害が特に多い地域の治水を優先すべき(2)
- 洪水・水害対策を優先し、整備に伴う移転等に対しては補償を行うべき
- 洪水・水害対策を優先すべき。水質の改善がその次に大切

1-4 水質改善や環境保全を優先すべき

- 治水も大事だが、水質向上を優先すべき(7)
- 自然環境の保全が最も重要(5)
- 自然環境の保全が最も重要で、その次に治水が重要(5)
- 多様な生物が共存できるよう、自然環境を保全すべき(2)
- 水と緑が大切(2)

1-5 水とのふれあい、憩えることが重要

- 安全に川とふれあうことが出来る様にすべき(4)
- 雨水浸透対策などを進め、河川空間の利用のし易さを向上させることが重要
- 憩いの場となることが大切

1-6 天災は予測が難しいことを前提に治水を考えるべき

- 水害を完全に抑えることは難しい。ある程度、洪水と共存することを考えるべき(4)
- 予測は難しいので、洪水の危険があることを承知しておくことが重要(3)
- 予測は難しいが、行政が責任を持って相応の対策を行うべき
- 天災は防ぎようがない。なるべくお金をかけないような対策を考えるべき
- 予測が難しいため、だんだんに目標を高くしていけばよいのではない(4)
- どの程度の洪水に耐えうる川を目指すのかよく議論することが重要

1-7 水害後の対策も考慮した、事前の官民協力やソフト施策の充実が大切

- 人災にならないよう、適切に対策を行うべき(4)
- 水害が起こった後の対策が大事(2)
- 地元住民が管理可能な治水対策も考えるべき
- 災害を全て防ぐことは不可能なので、水害が起こった後の対策が大事
- 避難勧告を行う場合、安全な避難場所を確保すべき